

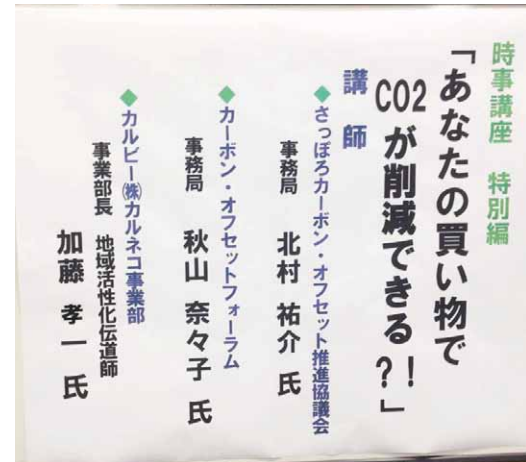
札幌エルプラザでのセミナーが農業新聞に掲載されました。

CO2をもっと身近に簡単に。カーボン・オフセットってなに？



札幌エルプラザで1月13日(火)に開催された札幌消費者協会様主催セミナーが農業新聞に掲載されました。参加40数人ほぼ全員が一般個人という、消費者目線の意見や質問が飛び交うセミナーで講師としてEVI推進協議会からは加藤が講演させていただき、環境貢献型商品や仕組みの展示も行ないました。

記事はEVIの各種カーボン・オフセット商品の説明を掲載、長野の廃棄していた規格外のリンゴや徳島のサツマイモにつけられた1商品につき1円を森林支援につながる環境貢献型商品を開発することで特産品の価値を高めているといい加藤部長は「地産地消の取り組みが地域の森林を守る取組みにつながっている。」ことを訴えた。(記事の一部を抜粋)



平成27年1月23日農業新聞

「カード」を発行。江別市 もぜひ利用してほしい
内の健康チェックステーションと連携に期待する。

札幌消費者協会フォーラム
CO2削減事例を報告

【石狩中央】札幌消費 者協会はこのほど、二酸化炭素(CO2)の削減を
目指すカーボンオフセ
ット事業を広めようと、
専門家を招いたフォーラ
ムを札幌市内で開いた。



札幌市内で開いた。農産加工品を販売する際、森林整備のための支援金を上乗せして販売する事例などが報告され、参加した主婦ら30人は普段の買い物を通じてできるCO2削減の取り組みを学んだ。

カーボンオフセットとは、経済活動や日常生活で排出されるCO2などの温室効果ガスを、森林整備などを進めていくことで吸収していくという活動で、札幌市内では「さっぽろカーボン・オフセット推進協議会」が中心となって周知活動が続いている。

フォーラムでは、カルビー(株)カルネコ事業部の加藤孝一部長がカーボンオフセットに取り組みやすい事例を紹介した。長野県産のリンゴ農家は、廃棄していた規格外のリンゴを使ってドライフルーツを商品化し、1袋あたり1円を上乗せして、その金を県有林の整備に充てている。加藤部長は「6次産業化を進めることで、森林保全と地域貢献につなげていける」と指摘した。

徳島県の農家も地域特産のサツマイモ1袋に1円を上乗せして販売し、特産物の商品価値を高めているといい、加藤部長は「地産地消の取り組みが、地域の森林を守る取り組みにつながっている」と訴えた。最後に、同協会の奥谷直子理事が「一人一人が大量のCO2を毎日排出していることを自覚し、身近なところから削減していく」と締めくくった。

具体的なCO2削減について学んだフォーラム(札幌市で)